研究代表者
有本 建男
国際高等研究所
チーフリサーチフェロー
科学技術振興機構参与
政策研究大学院大学客員教授
ISC（国際学術会議）フェロー

研究副代表・実行責任者
宮野 公樹
国際高等研究所
客員研究員
京都大学学際融合教育研究
推進センター准教授

持続可能で レジリエントな 社会実現に向けた 学際共創の方法の 開発と実践研究

人類は生存の危機、学問・科学技術の危機に直面している。特に日本の分断状況は著しい。高等研発足の理念「何を研究するかを研究する」に立ち戻り、問の探求、解決の方法について多様なステークホルダーが、分野、組織、ジェンダー、世代、国の境界を越えてボトムアップで自由に議論し、新しい学問・科学・技術の方向を探索する場を共創的醸成・拡大。内外の個人・集団を結ぶネットワークを形成・維持・拡大していく。

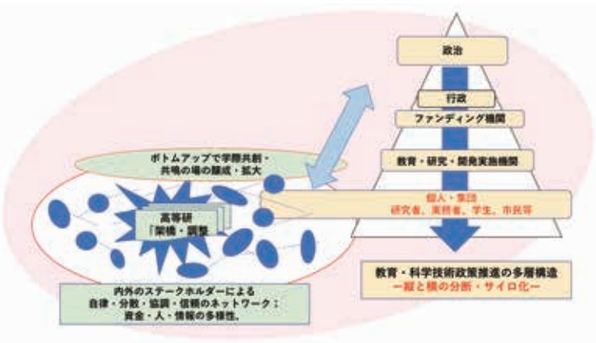
■参加研究者

氏　名	所属・役職
有本 建男（研究代表）	国際高等研究所チーフリサーチフェロー 科学技術振興機構参与、政策研究大学院大学客員教授 ISC（国際学術会議）フェロー
宮野 公樹（研究副代表・実行責任者）	国際高等研究所客員研究員 京都大学学際融合教育研究推進センター准教授
上野 ふき	名古屋大学院情報学研究科社会情報学専攻情報哲学研究員
呉 玲奈	株式会社ユニオン・エー 編集者
中山 俊秀	東京外国語大学副学長、同大アジア・アフリカ言語文化研究所教授、同大学際研究共創センター長
矢代 真也	編集者、合同会社 SYYS 代表
渡辺 彩加	国際高等研究所特任研究員 京都大学学際融合教育研究推進センター技術補佐員 京都大学東南アジア地域研究研究所連携研究員

趣旨

1．境界を越えた議論と探求の場の醸成

人類は生存の危機、学問・科学技術の危機に直面している。特に日本の学問、世代、組織などの分断状況は厳しい。高等研発足の理念「何を研究するかを研究する」に立ち戻り、研究開発の問、社会の問の探求と立て方、解決の方法について、多様なステークホルダーが、分野、組織、ジェンダー、世代、国の境界を越えて、ボトムアップで自由に議論し、新しい学問・科学・技術・社会の方向を探索する場を共創的に醸成し拡大して行く。さまざまな壁を越えて、内外の個人・集団を結ぶネットワークを形成・維持・拡大していく。



2．全国9地区での対話集会
「全国キャラバン3Questions」の試み

主として若手研究者を対象に、分野、組織、世代、大学の境界を越えて、自らのテーマの問い直し、新しい気付き、融合、創造を誘発する全国規模の学際共創プラットフォームの構築を目指す。各大学で活動する学際センター、URAなどを繋ぎ、今後2年間で全国を9地区に分け、各地区における幹事校を拠点に、その地区の研究者等100人規模の研究ポスター、対話集会を開催する。2年間は試行期間として9か所でキャラバンを実施し、その後、定常的仕組みに移行することを計画している。

3．企画、運営、資金、人材など産学官の多様なステークホルダーの参画

多様な学術分野の人々が集まり、問の立て方や越境の工夫について、本音で対話できる仕組みと環境を醸成することで、自らの研究を深く問う場となることをねらう。共同研究の創出による研究テーマや内容の進展のみならず、研究者個々人の研究精神の深化にもつなげ、さらに同様な企てを進めている個人・集団を接続し、全国規模で展開することで、我が国の学術界の基盤と文化の醸成を目指す。

4．今までの実績

第1回：2024年3月3日～6日、中国地区（広島大学）
＊過去の実績：京大学際融合研究センター「100人論文プロジェクト」、高等研／国会図書館関西館「合宿」プロジェクト

事業内容

（「全国キャラバン3Questions」と称す）

全国キャラバン3Questionsは、「問いの磨き合い」に特化した研究ポスター発表大会プロジェクトである。全国規模での実施を目指している。専門化、細分化がすすむ現在の学問研究において、「問いの磨き合い」という学問本来の営みを行い、学問の土壌を耕すことを目的としている。

プロジェクト名にある「3Questions」は、参加研究者が「いま追いかけているテーマ／その展望／社会への問いかけ」の三つをさす。所属や役職による先入観を持たないよう「匿名」をルールとし、一枚のポスターの中に、研究者それぞれが「3Questions」について表現展示を行う。市民は誰でも会場を訪れることができ、研究者が表現した3Qに対して自由に付箋コメントを貼ることが可能である。

全国キャラバンは、2023年度から2年間かけて、全国9地区で実施する予定である。その第1回が、2024年3月3日から6日に、中国地区の広島大学で行われた。2024年度は北海道・北信越・四国・東海の4地区で、2025年度は東北・九州沖縄・関西・関東の4地区での実施を計画している。高等研が主催、各地区の大学が共催となり実施する。全国キャラバンの趣旨に賛同してくださった10社以上の企業から寄附が集まっており、クラウドファンディングも実施している。

第1回は、高等研が主催し、中国地区の5大学、広島・岡山・島根・鳥取・山口大学が共催した。また、毎日新聞、日経新聞、中国新聞などの後援を得た。

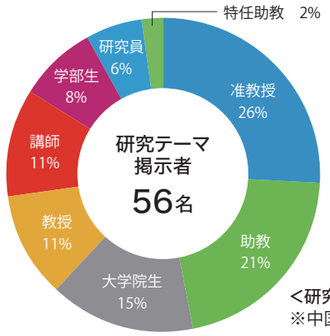
第1回では、56枚の参加研究者によるポスター発表と、256名の市民参加があり、日曜の開催日には小学生や高校生、父兄の参加もあった。参加者からは、「美術館を訪れたようだ」「この研究者ともっと踏み込んで話がしてみたい」などの付箋コメントが寄せられた。ポスター発表者からは「地域の方が私たちの研究に期待してくださっていることがわかり、勇気をもらった」、企業の参加者からは「学問の根が一緒だ」といった感想が寄せられた。

第1回中国地区開催の詳細

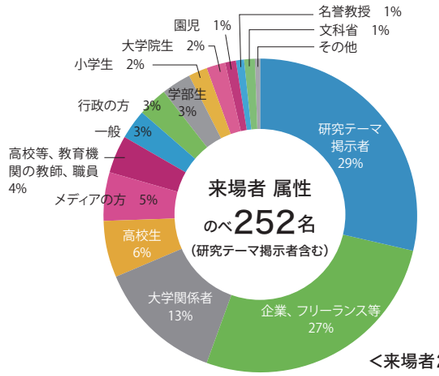
（1）日程
2024年3月3日（日）～6日（水）

（2）場所
広島大学東千田キャンパス地域連携フロア SENDA LAB

（3）内容
参加研究者56人ポスターの展示／来場者（252名）との対話／4テーマ「都市」「循環」「利己的行動」「創造性」に係るグループセッション／参加研究者・市民・支援企業間の意見交換



<研究テーマ掲示者56名>
※中国地区の16組織（37部局）



<来場者252名>

（4）寄せられた感想
- 日本中に志の高い学者はたくさんいる。彼らの学問に興味を持つ社会人もたくさんいると感じた（企業S）
- 本当に様々な分野、年齢層の人々が参加していて、他にはない素晴らしい出会いの場であった。会場の雰囲気も素晴らしく、ここからさらに新しいアイデアへと創発していく可能性はある（研究者K）
- 研究者だけでなく地域の方が私たちの研究に期待してくださっていることがわかり、勇気をもらうとともに頑張らなければと気合を入れ直しました。（研究者M）
- 色々な立場の人からコメントがもらえたのはとても嬉しかったです（研究者O）
- どんな分野の学者も、何らかのテーマを与えられると、自らとの接点を持ち得る。つまり、学問の根は一緒。それらの接点同士が繋がったり融合したりした時に、また、新しい発想が生まれる。（企業S）

（5）研究テーマ例
- 地球温暖化→地球沸騰化：生物が生きられる温度について真剣に考える
- 文系博士の存在意義について
- 相手の表情からわかること
- 未だ謎多きアルツハイマー病：データ解析で挑戦
- “ぽつんと一町村” の元気な暮らしを支えるニッポンの技術
- 日本の伝統的発酵食品の抗老化効果
- 国籍や言語にかかわりなく、誰もが等しく活躍できる、グローバルな大学像とは
- この世はどのような「価値」がどう「循環」していくのか？